General Symposium

Toward to Facilitating Convergence of Multidisciplinary Knowledge

Chair: Tadao Isaka (Ritsumeikan University), Chie Ikkai (Gunma Prefectural Women’s University)
Wed. Aug 31, 2022 4:20 PM - 6:10 PM 第1会場 (3号館3階301教室)

今回のメインテーマである「総合知を生み出す体育・スポーツ・健康科学」を支え、推進する本学会の今後の方向性について以下の点から議論し、今後の発展につなげるシンポジウムとしたい。その一つは、学会本来の持つ文理横断の強み、ならびに他の学会にない身体についての総合知を生み出す学会の強みは何か。2つめとして、老若男女の別だけでなく、様々な分野・考え方の者が集まる本学会は、まさにダイバーシティ環境の中で、体育、スポーツ、健康を議論できる学会であり、「発想のダイバーシティ」からwell-beingへとつなげていく学会の姿を示せないか。3つ目として若手の学会員からみて、「総合知を生み出す学会」の良さは何か、また総合知を生み出せる研究者は、大学や研究機関にとってどのような魅力になるのかについて、学会員のキャリアの観点から本学会の強み、魅力は何かについても議論したい。以上の論点を中心に、今後の本学会の方向性、展望について学会員の皆さんと議論を深めるシンポジウムとしたい。

[本部企画-S1-2]Preparation and implementation for generating the Multidisciplinary Knowledge

*Hagiwara Goichi[1] (1. Kyushu Sangyo University)

＜演者略歴＞

米国アーカンソー州立大学大学院修了（M.S. Sports Administration）、九州工業大学大学院生命体工学研究科脳情報専攻短縮修了（博士（学術））。国立大学法人鹿屋体育大学大学院准教授を経て現職。専門はスポーツマネジメント。その他、株式会社リトルソフトウェア顧問、スポーツ庁長官賞などの受賞歴。

人文・社会科学、および自然科学を含むあらゆる「総合知」により、社会の課題を解決するために様々な取り組みが行われている。私は「総合知」を生み出すためにスポーツ科学の若手研究者の立場から何を準備するべきか、または実践することができるのかを考えながら教育・研究・社会貢献に寄与するための努力を重ねている。学位を取得した研究内容を発展させせることは基より、 Beyond 5G、メタバース、 XRの時代でスポーツをさらに発展させるために異分野の研究領域から新たな学びを得るための挑戦を続けている。30代の若手研究者という立場を活かし、失敗を恐れない実践を続け、40代、50代には総合知を生み出す立場になれるような研究者になることを目指したい。本学会では若手研究者が失敗を恐れずに実践している初学者「総合知」の事例と今後の展望について語り、学会員の皆様と様々な議論をしたい。

©Japan Society of Physical Education, Health and Sport Sciences